



山ふまを 蝉の暑うす 鯉昇

涼 市比良も風早便 樂菴

人部も退く涼の床儿ふ 長笛

卯のまやの雪の法を咲 夏赤

一四歩滝壺 涼 一あろふと 圖南

夕まやを流 かくも 叔 保固

ゆきまや 融く消す 夕の色 梅湖

物の花の 五月有由 暑哉咸壹

一寸の 蠲を 歌乃 長琴

石意を 浮物も 庭や五月雨 三蝶

踏車あまも 踏一歩の 只路

雪まじり 侍も有 睡人

人の起。 風 招き 暑哉 卜端

春秋やかりの なみ 暖まぬ 魚友

物まじり 悟雄 経書や巻も 戸裳

かきま 文秀 我影のまよ 進み 暑哉 董父

白紙の 茶の 鐘の 中も 揚 蜂房

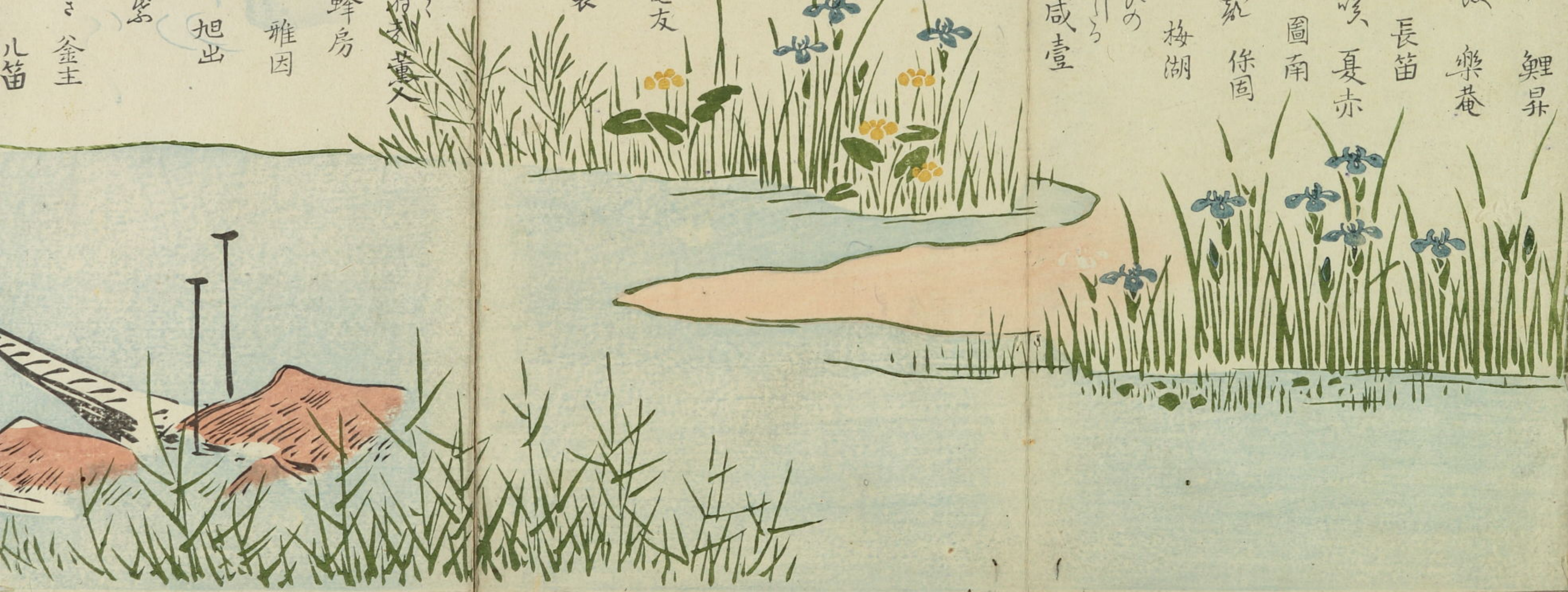
おとす 中 赤 中 四月の 山 雅因

くま 江の 系 出 旭出

若林 中 暖 吹 雨 真乃 金主

吹 風 子 金主

吹 風 子 金主



去年の夢を覚る露光にほくは墓躬

入相と 伊くさく 逸蝶

風も若み 箱根 八里を 何の甚

ふの思人牛若よりかまひを 周木

る舟陣く船の初着せ 何れも 一見

宇治の磯 志と水巾糸

月もやけと夕龍 源氏の間 雲卿

と雲龍の控ふふ華 異哉 猶貫 我夫り

惟子の出り住り夏の月 芦洲 過ぎり

ひびくは 川の 暫ん哉 百鳳 死奈

一枚のたぬ 石ころ 異哉 退耕

夕暮のそら 柳 魚亮

弱舟の 涼哉 扶水

蚊退り火や 村 水雞哉

背を振り 水雞哉

壺柱の 雷の蚊や

小むら 雷の蚊や

ぬきた 柳の下 杖谷

夏の雲の 杖谷あり

麦秋や 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

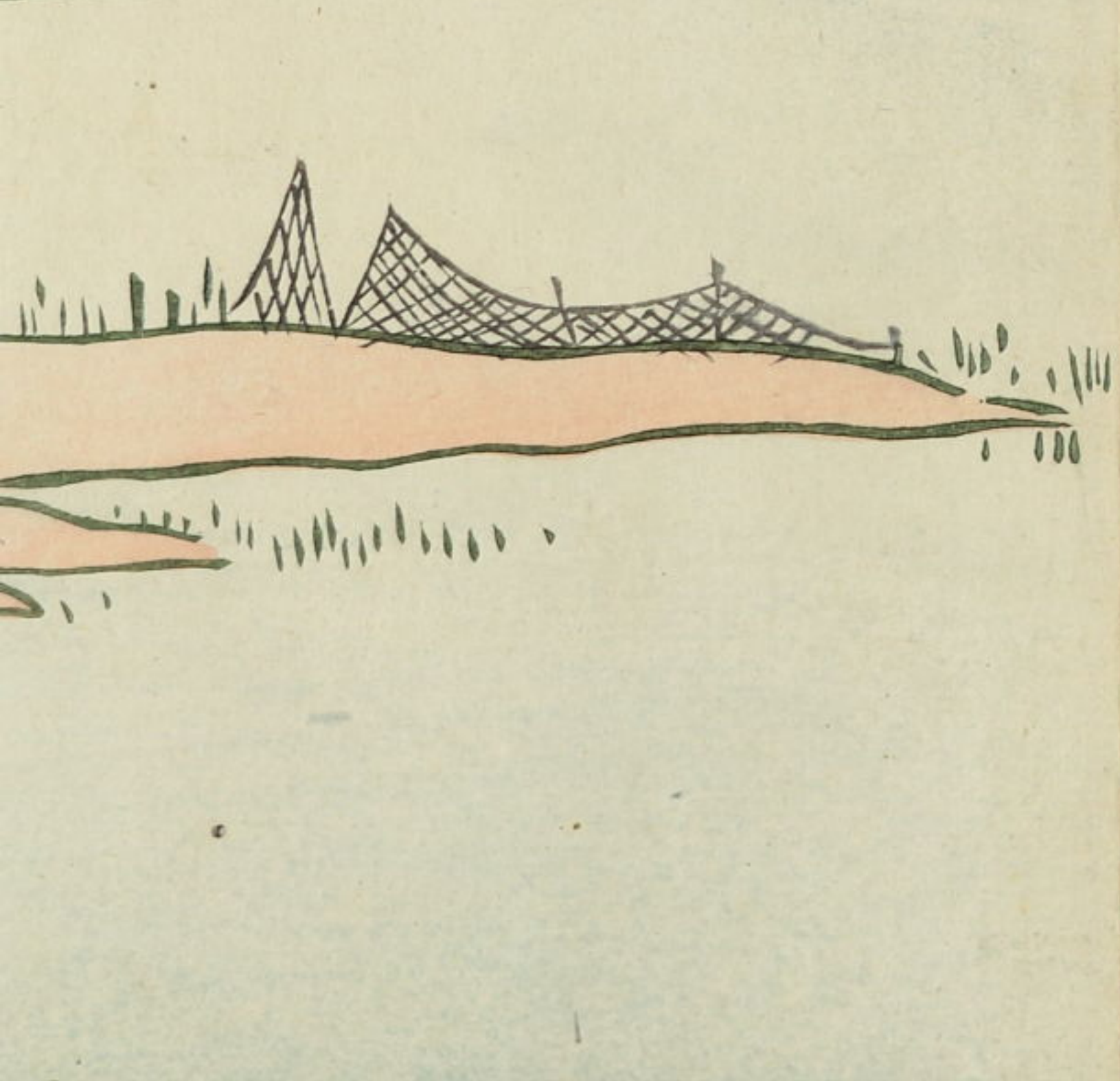
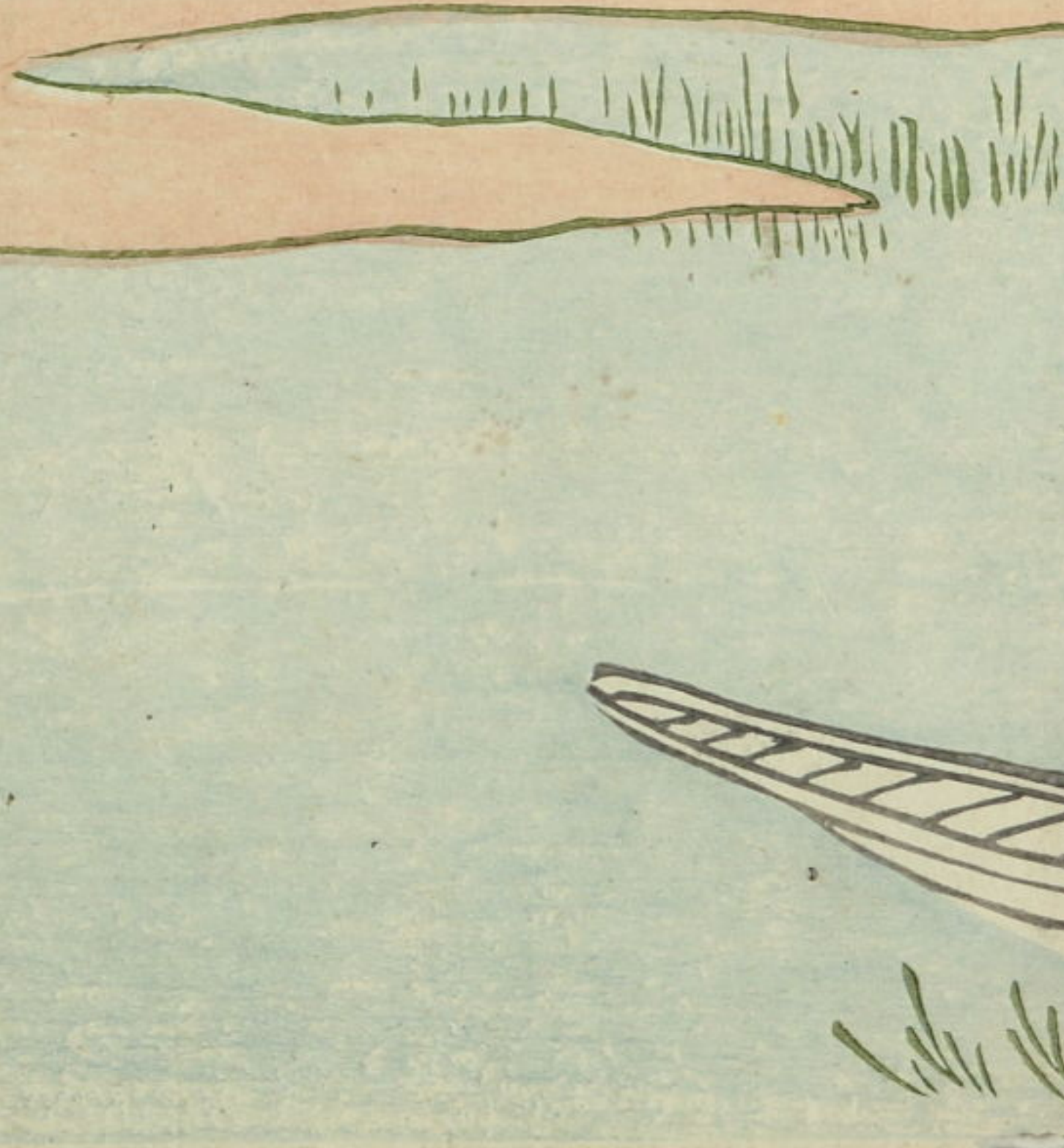
水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり

水を月 杖谷あり



小畑の雷の蚊や

姉子居るか かつま せうひの掃と

洗ひ發 櫓の下に けり

春秋や重 櫓のあり 杖のあり

よめこのの 勝はす かつま

水を月や

皆温水の 澄 けり 俵嵐

ゆき書 首の 植こ女

糸を吞 火の 錦 里子

糸の尾も 糸の 風ふき 東阜

うごき立 糸の 左甚五郎 鳴耕

歌半とて 楚亭 涼一 池柳

かきめ 船おし 千星の 帆

ゆき書 階の 團お 掉歌

卯乃およ 孫倉の 山表 初松魚

かきめ 女羅 李石

吾顔や 行を 悟鳥

ゆき立 日傘お ちの茶子

天路 佛生 几跡

氷室守 氷の 暑外 堅三

富士原 足あき 新三 羽幸

舟おきて 膚麻の 門を 水鏡お 裡梅

物ほしの 笑や 裡徳

天の星 何あつ 知蜜

蚊柱を 柳の 几英

糸の 戸 石鼎

為樂の 茶や 和石

肌を 錦田

公達の 住ん 栄田

草も 錦水

神原 錦水



舟立の月夜
走る日傘哉
天路
あき茶子
咲かしてや
佛生
几跡

氷室守如く凍ゆる暑外
富士原足はあきつゝ
多うかきて 宵森の門を
羽幸
裡梅

物作しの
笑や
狸徳

天の星何ふのハコ
蚊柱を
の跡をうほし
几英
和石

肌をみ ねふす
心連の 住んを
錦水
栄田

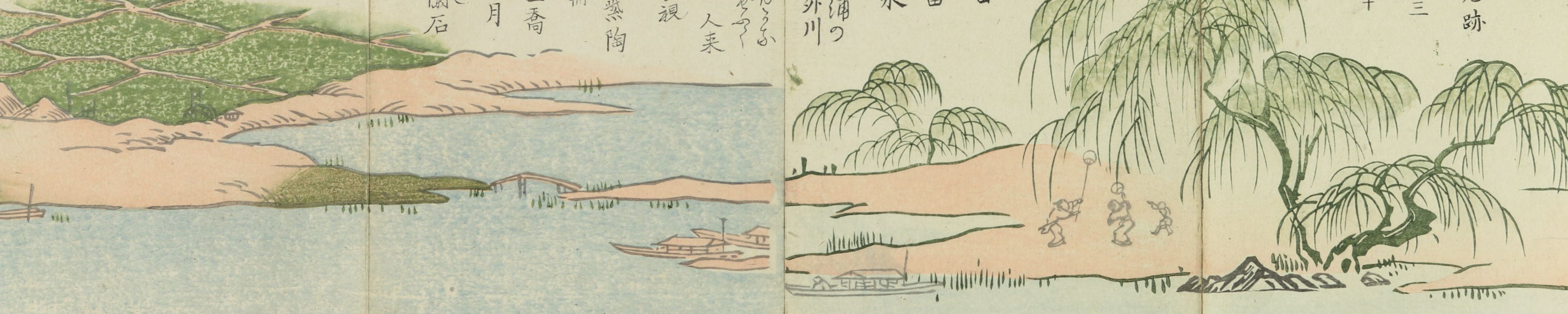
神原温泉の浴
外川

郭公の
除来
停乃乃園
夏視

白亀 出る月
この罪 消ぬ
熱陶

武彦
史待著
山月
蘭石

夕立の
夜
空
雲
雨
風
雷
電
嵐
雪
霜
露
霧
霞
虹
雲
霧
嵐
雪
霜
露
霧
霞
虹



魚子
 五月雨 力羨 かうつ
 灌佛や 扇振之春の風立 出用
 ぬの山其若 宝
 多きやこの 摘馬
 涼哉東井 躬
 帷子之 男つらさ 歩六
 割草の目代を 羅江
 夏まゝく 一踏ん
 伽藍石



艶曲旋教
 應可聴秋
 花雖種未
 能香



土佐光起筆

徒り 草花
 錦や海乃上

保固

化人の喉や
 話ん 虫の玉

圖南

山はと 宿の
 あり 也 志の 末 志

青由

名月や 見の水
 東の音
 桐貫

小塔哉や

電友

朝白也 花を
 萩サ秋乳 乳兄才 長琴



とらり花鳴子一見
散やあおしり
昔よりら羽幸

はまてくも娘ころ
や森花を 儿跡
沙るおと鬼子も
星の標も
逸蝶

土屋原舟
有



有 天の川
蘭石
梅枝尾の情
さるる初
有風

菖子好く凡と事 雅因
母系阿はしり
京中の 大文字
眼を集る 里千

原好母一誦之め
山月
徐来

真亮
阿ま川
色出る
梅
おのり
大卒日
扶永

人向
穿山子
文好
退耕
仙の月
倚雨の
句や

酒
二喬

秋も在る
夏視
知蜜

福美山田乃 都て
蕃方冠の如

鑑可羅念四
飛天空之聲
外川

まねのぬ
初嵐
秋風
虹吹流
淀の淵
狸徳

何
家
毛
今日
月

とふらぬと言
錦田

和石
日

古塚
蘭子

薄衣以て脱や
通ひ甚ぬ 俵根
かよ男も化せ
仙人
玉直

草
馬の
久

約ののきく
只直
右舟
馬帽子

降すのぬ 夜言
板玉

筆梅は家博望
花の石白 詞根
三井さね系六女の
張道能海 八束

止まを鳥よ志の猿中家の座
更りや三猿さゆる板石川 七羅
盈すの後の月足能八分目 歩六

名月や
中世の柳
結ひあけ
其谷

朝七夜や 一志白里 魚子
影流く若も 猶馬
其の朝

女系
了る如高
権部 六棠
一漱能海
や
お水
栖美

写紀板も影り火を焚 力美
牛糸
柿紅紫刻使より 増重
敷く
名月や又玲一き 茶裡
川の幅
流尾系は白草と種 宝形
のるる
舞や由乃のなるぬ 知金
草能先

棋水
上流の
おる 何所
おる 夕有る
呉房

名月也
公名上 蛇房
法木も系心
上、流も系心
と、流も系心
田ひ女 羅江

秋の襟
葉能下 咸壹

石ころとハ
いふすま
月令書
昌木林

虫能音能
一回の
棹能音
夏赤



いづし夏過
抱翁の
秋もくれん

煙火や

飛る川
とありぬ



名世の
 山石の上の
 法木五系
 上、下、中、下、中、下
 と、下、中、下、中、下
 白ひし、羅江

月令書
 昌木林

秋の露
 咸壹

虫の音
 一回
 棹の音
 夏赤



いづれ夏過
 秋もくれ

抱簾の
 ちりま

飛る川
 とらぬ

煙火や

物々

か
 子

あ
 妻

古有堂



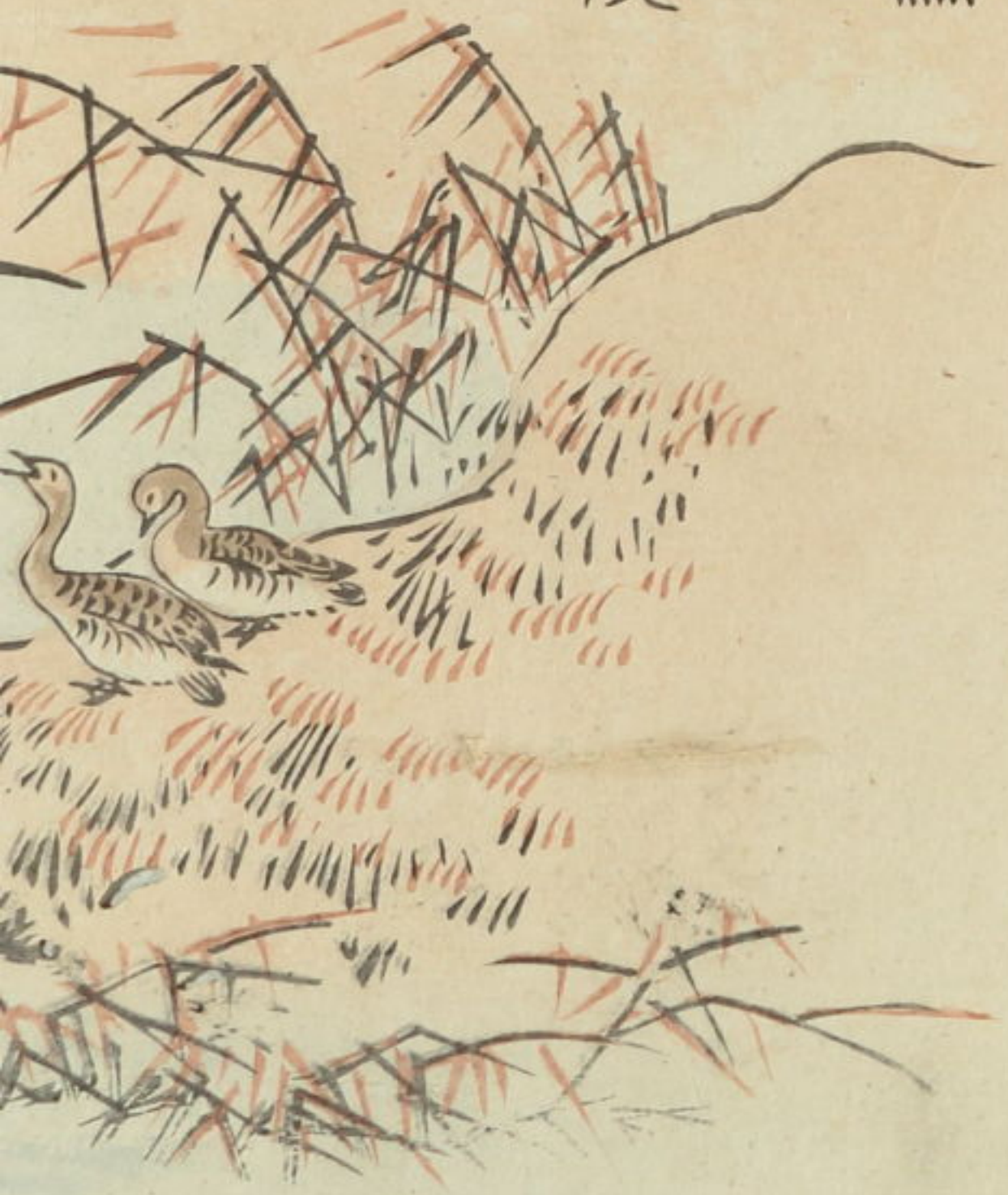
水風を埋む五更の空を
 蜂房

京師
 身行雲卿
 巾糸

一体の—の字や
 車道 一見

古池の
 かみら猶賈
 文好

流持の
 文好



妻

古有堂



了れお羊寢よ公水紀 羅江

如風を埋む之奥の宇を哉 蜂房

京師の 巾絲

身行行 雲卿 巾のつらみ哉

一休の 今すく本より 塔の売 魚夷

一休の 一字や 老乃 車道 一見

古池の 水 猶貫 文好

室を哉 文好

浩持の 長生あふ 扶永

柴俵や 不ひ 老の 控あされ 和石

はれの 山 巨達哉

切あふ 羽幸 天路

貸床に けしき 蘭石

とつ 天路

初雪や 移の 衣之 退耕

初の 寒垢離の 躬を 柳

捨生 芦洲 雪の月

海嵐哉 里子 石鼎

志す 柳の 時支 鯉昇

外 長笛

笠置の 夏赤

舟の 楫ま 船風 浪客

散 百舎哉 怡雄

晩鐘ふ あり 睡人

戸棠 文秀

文秀

文秀



はつしや
まあつしや
切あつしや
羽幸
巨達哉

貸床
かき
き
蘭石

天路
退耕

寒垢雜の
取
雪の月

芦洲
あま
雪の月

比無
里子
石鼎

海嵐哉

長笛

長笛

笠置の
夏赤

依客
悟雄

百會哉
睦人

一
文秀

戸裳
あま

魚友

旭出

長琴

釜主

釜主

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤

路赤



其端

其端

琴子此賦... 長琴

福... 薰人 名... 釜主

空... 酒

ほろろ... 几笛

尻... 路赤

空... 掉寄

細... 秀

併... 錦水

仰... 几英

孫... 加...

た... 有由

山... 有鳳

梅... 樂黃

都... 徐固

更... 其瑞

鬼... 逸蝶

法... 柳...

あ... 柳...

志... 翌美

あ... 玉苗

山... 採几

岨... 名司

む... 被奴

あ... 龍衣

屋... 采田

水... 几跡

小... 李石

小... 女羅

山... 楚亭

鷹... 鷹言

松... 鷲耕

...

...

...



生きたるおのをば切らば生は嵐哉紫陶

分別の如比 捨杭のあしよ 白鳥

行あはれ一帯 舟とて 外川

踏ふ川 獨らぬ 二喬

雪の寛夜学 知蜜 後庭の氣ハ都

二朱の銀世界 付らる 雪乃庭

修りある世あり 賤の女はるあはれ

あはれ備 嵐十 俵嵐

藤の時を是もとて 松を佳高

好ありく飄あはれ 錦とて山月

とつ言や 眞乃富士とて 錦田

連摩忌ハ 礎を几掌 とも吹のこゝろ

あはれとて向なる 小松とて 寺睡

朱唾の甜きのこゝろ 早橋 玉臺

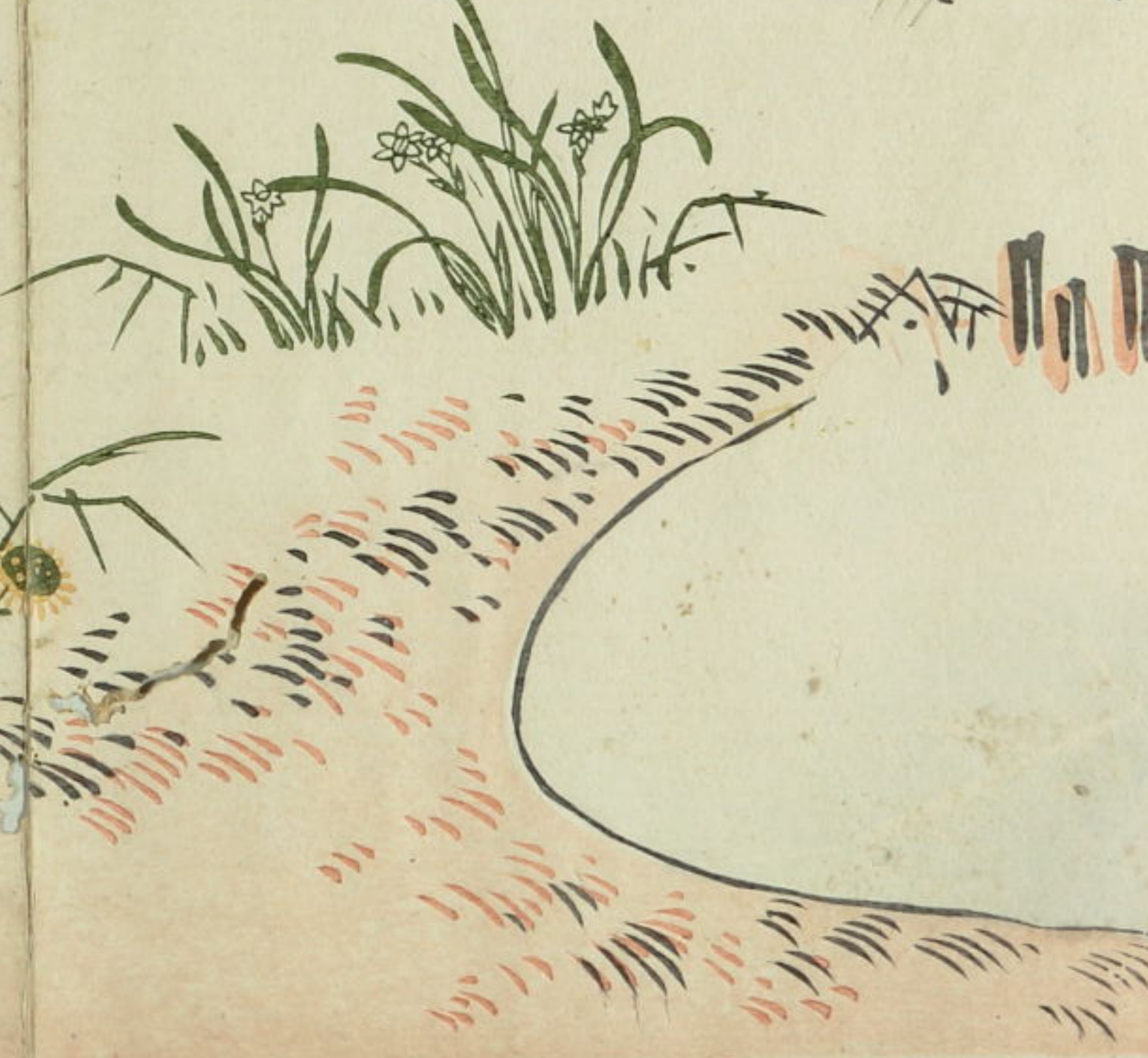
あはれとて ありけり 梅女

雪結りや 人の旅人通 馬尺

あはれとて 水仙や 葉雪の

あはれとて 葉の並ぶ 猶馬

東皐



玉女あはれ雪の結る露が 蘭子

詠い進 流るるも 有葉が 雛女

風や流の音 笑ふも 姑息 梧鳥

ゆきの夜や 夜利も 思はれとてあはれき 魚子

やとて 求る音 只直 軒の 氷柱とて

耳も 求る音 入ぬとて 河とて 其各

朱世に 舟の 雪の 舟とて 除来

百正とて 舟の 舟とて 詞根

天とて 舟とて 舟の 舟とて 宝躬

雪の 舟とて 舟の 舟とて 力義

雪請の 舟とて 舟の 舟とて 朝々

時雨や 舟の 舟の 東井

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

詠い出 けしきも 萬葉歌 雛女
 凧や浪の音 笑うの おも 梧鳥
 ゆきの夜や 夜利も ぬれとあそびき 魚子
 やくも 氷る音 只直 軒の 氷柱 心
 耳も 氷室を 入ぬ とも 何れ 其 各
 氷世 凍り 氷付の 雪の 舞 山 除来
 一 百 正 雪 舞 氷 糸 の 裡 け 詞 根
 天の 氷 舞 氷 隙 隙 の 湖 宝 躬
 雪の 日 や 雪 舞 氷 通 氷 何れ 力 羨
 雪 請 の 氷 山 雪 や 何れ の 春 朝

時雨や 氷の 舞 東井
 餅汁を 氷田の 穂

命を 氷の 舞 舞 舞 星 連

日のおも 氷 舞 富 陽

初雪や 氷 舞 の 音 理 訥

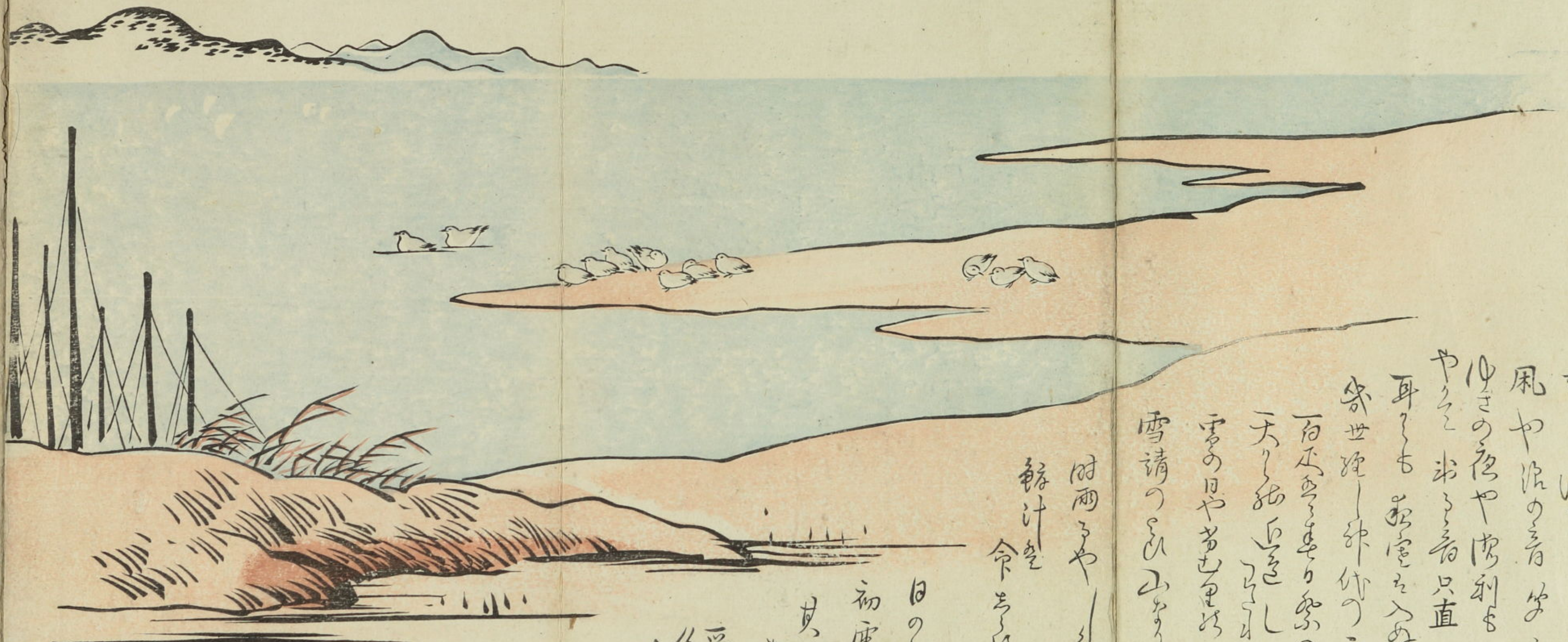
氷 舞 の 音 推 ッ 歩 六

高き ち ち ち
 十二月 何れ 村 作 廢 生

氷 舞 の 音 周 未
 氷 舞 の 音 氷

祝
 氷 舞 春 秋 友

氷 舞 の 音
 氷 舞 の 音
 氷 舞 の 音
 氷 舞 の 音



雪埋む橋 氷の 氷
 氷 舞 の 音 氷



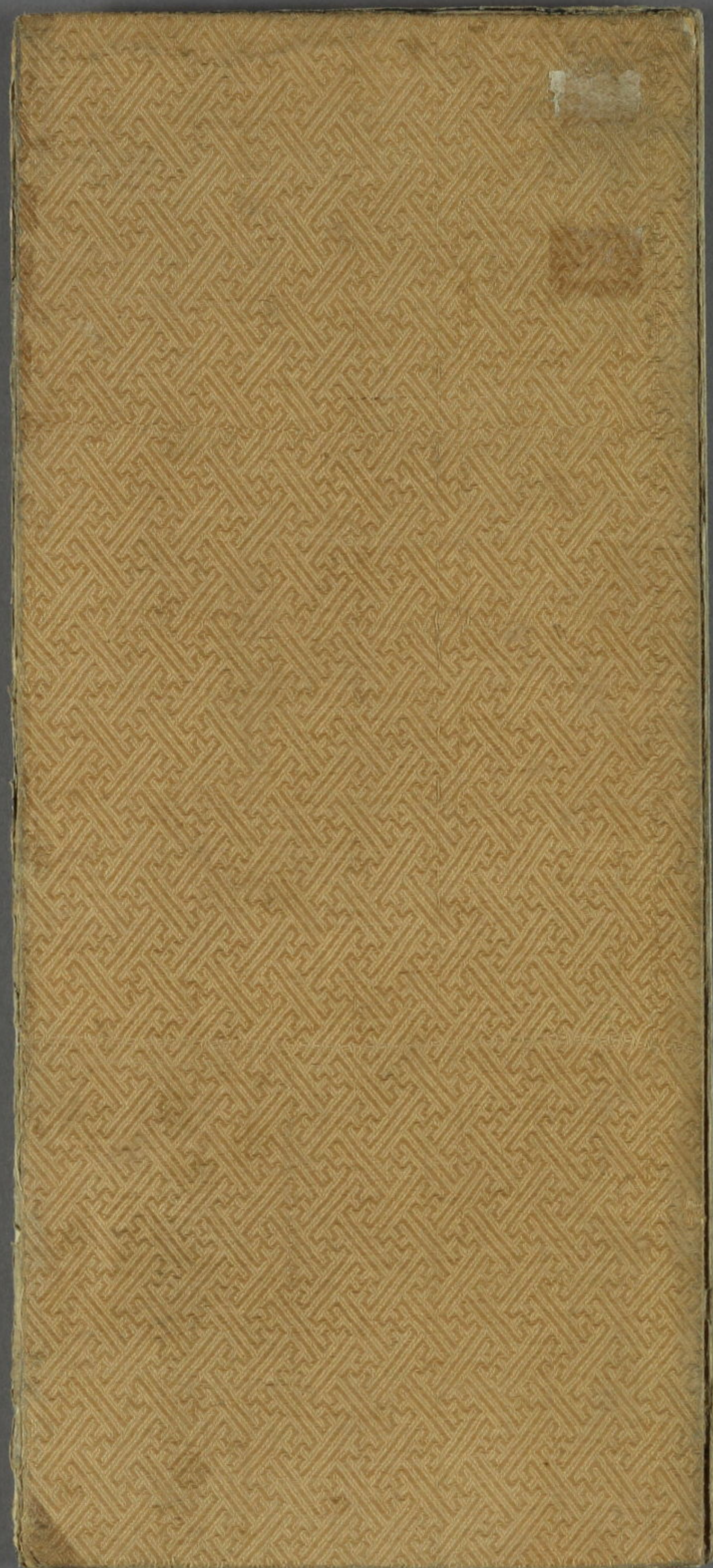
松尾寺信

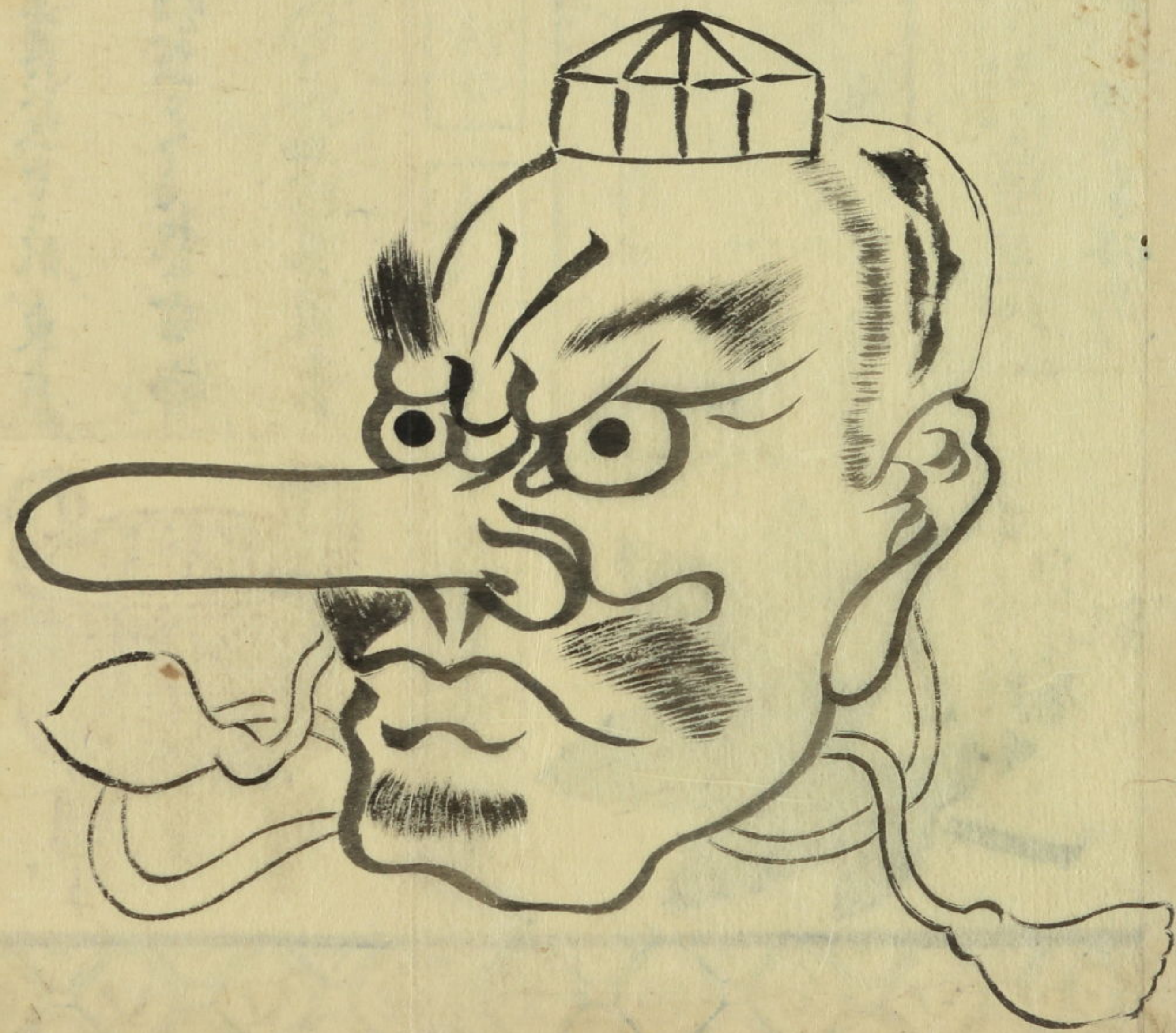


雪埋て橋忠山家
河井子孫一彦飛

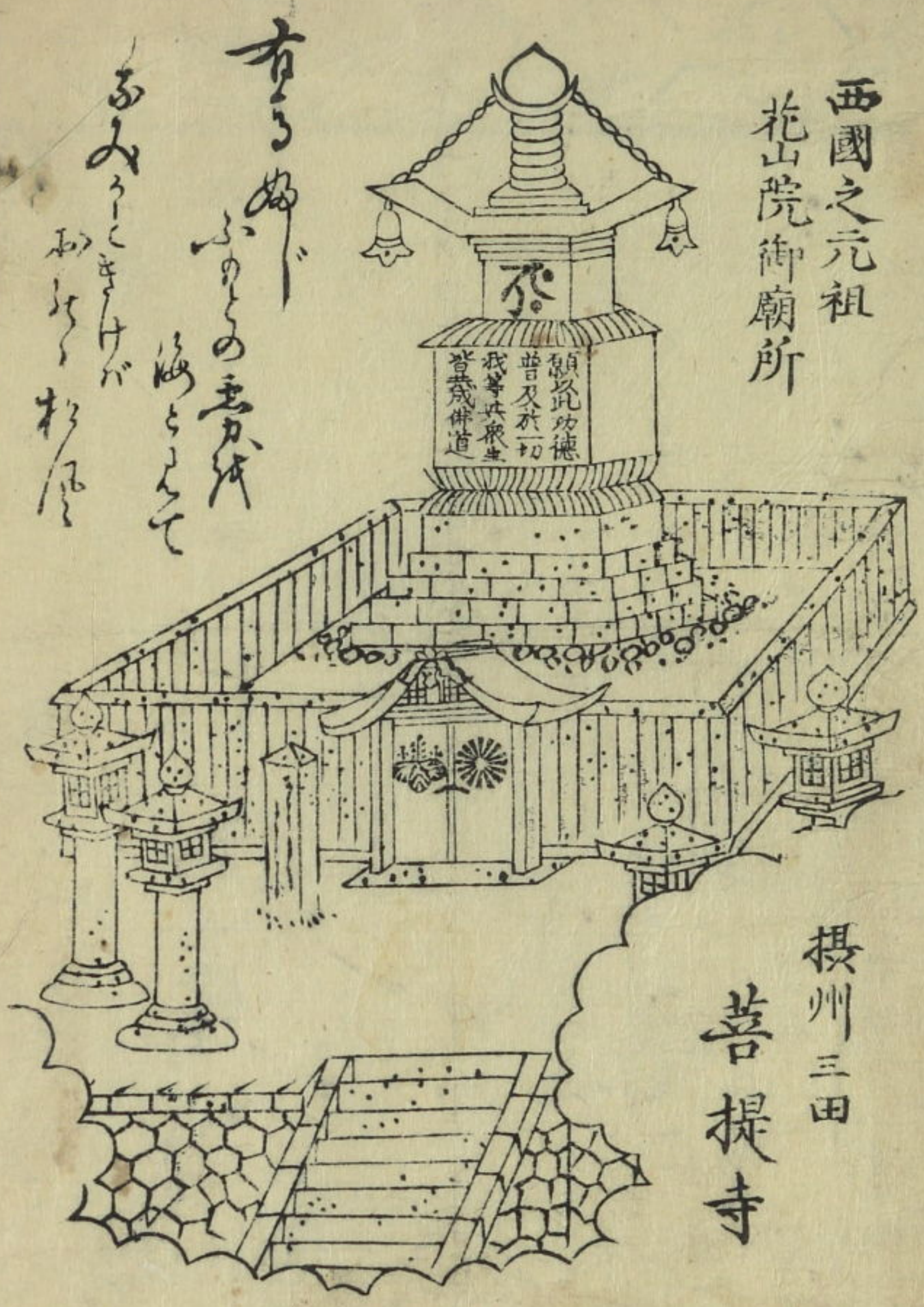


祝
亀霍春秋友
先...
...
寒牡丹の
一...色





西國之元祖
花山院御廟所



攝州三田
菩提寺

有る婦
ふりまのまがは
海らんとて
ふんろくまけが
おれり杉屋



大坂南區玉屋町五十五番地
販賣本舖 天魔堂

養毫水

大坂南區玉屋町五十五番地
販賣本舖 天魔堂

養毫水